整理番号	36－4－18

現況分析における顕著な変化についての説明書（教育／研究）

法人名	新潟大学	学部･研究科等名	経済学部

1．分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目Ⅱ　教育内容

2．上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名 教育課程の編成

本学部では，平成20年度より各カリキュラムを主専攻プログラム化し，プログラムの到達目標，それらと授業科目との関連，プログラム改善のための方策などを記述した主専攻プログラムシラバスを作成した。それと同時にカリキュラムの改定を行い，履修コース制を履修モデル体系に変更した。これは，履修コース制で求められた卒業要件を，履修モデルという形で学生に提示し，履修コース制と同様の学習体系で学ぶことも，学生の興味･関心に応じてより柔軟な学習も可能にすると同時に，学生個々の目的意識を明確化させることを目的としている。経済学科における現代経済学及びグローバル経済，経営学科における企業経営，会計及び公共経営という各学習分野を，履修コースという枠組みで捉えるのではなく，各科目間の関連性などにより体系的にまとめられた履修モデルとして学生に提示することにより，学生は，単にコースワークに従って学んでいくのではなく，それぞれの履修モデルの目的を充分に把握した上で，どのように自らの学習を進めていくのかを判断していくことになる。従って，学生がより確かな学習成果を獲得するためには，各履修モデルの目的を学生にしっかりと理解してもらうと同時に，個別の学習指導が重要である。前者については，新入時ガイダンスにおいて，主専攻プログラムシラバスに基づき，履修モデルの目的，体系，各授業科目間の関係などをより分かりやすく説明するようにした。後者については，毎学期始めにはアドバイザー教員（２年次以上においてはゼミの指導教員）により，学生一人一人に対し，各学期の履修科目や履修計画について指導を行っている。

○顕著な変化のあった観点名 学生や社会からの要請への対応

本学部では毎年４月に学生に対するアンケート調査を行っているが，その中で，カリキュラムの改善点について指摘してもらっている。２年次生を対象にアンケートの集計を行った結果，平成21年度の２年次生（新カリキュラム適用学生）の「講義科目間の連携のとれている体系的なカリキュラムに改善して欲しい。」という指摘は23.7%で，平成18～20年度の２年生（旧カリキュラム適用学生）の平均である 28.6%より５ポイント近く減少した（資料）。これは，上記の教育課程の編成に関する取組が，学生の要請に応えていることを示していると同時に，学生が履修モデルの目的を充分に把握している証である。

資料　学生アンケート集計結果（昼間コース２年次生について集計）
カリキュラムのどのような点を今後改善して欲しいと思いますか。いくつでもあげてください

	18年	19年	20年	21年
1)講義科目間の連携がとれている体系的なカリキュラムに改善して欲しい。	29.1%	29.8%	27.0%	23.7%

整理番号	36 － 4 － 19

現況分析における顕著な変化についての説明書（教育／研究）

法人名	新潟大学	学部･研究科等名	経済学部

1．分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目Ⅲ　教育方法

2．上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名 授業形態の組み合わせと学習指導法の工夫

平成 18 年度より検討を開始し，平成 19 年５月に作成，平成 20 年度より学生にも公開を始めた主専攻プログラムシラバスでは，経済学科，経営学科それぞれのカリキュラムに対応する主専攻プログラムについて，「プログラムの概要と人材育成のねらい」，「期待される学習成果および効果」，「到達目標に達するための学習方策・方法」などについて説明している。期待される学習成果および効果では，この主専攻プログラム，すなわち学士課程教育を修了した時点で，どのような能力が備わるかを具体的に示し，到達目標に達するための学習方策･方法では，授業科目間の関連や，個々の授業科目により上記で示した能力の部分が学習できるのかを表すカリキュラム･マップを示すなど，学士課程教育の全体像を学生に分かりやすく説明している。同時に，主専攻プログラムシラバスでは，現在行われている学期末毎の授業アンケート及び各年度始めの在学生アンケートに加え，卒業生アンケート等を実施し，その結果に基づいて FD を開催するなど，主専攻プログラム（カリキュラム）の道筋を明らかにした。

○顕著な変化のあった観点名 主体的な学習を促す取組

平成 20 年度に行われた建物改修の結果，学生の自主的学習スペースが２カ所設置され，ロビーも学習しやすい環境に改善された。更に，平成 21 年４月より経済学部ミーティング･ルームを開設し，個人学習に留まらずグループ学習にも対応する環境を整えた。

授業においても課題を課したり，小テストの実施など主体的な学習を促す取組を増やしてきている。例えば「開発経済論」では，それまでの教科書を解説することを主体とした授業スタイルから，次回に行う内容についての課題を課し，学生は教科書を予習し，その結果を授業で発表する。この学生による発表に基づいて，適宜コメントなどを加えて授業を進めていくスタイルに改めた。また，「経済数学」では，通常の試験時間では出題することできない長時間の思考を必要とする「持ち帰り試験」（Take home exam）を導入した他，通常の課題においてもグループで練習問題を解くことやオフィスアワーに加えて E メールによる質問を推奨するなど，主体的な学習を促す様々な取組が行われてきた。

こうした取組の結果，毎年４月に実施している学生アンケートによると，学生の１日あたり自主的学習時間（試験期等を除く）は，30 分未満が 28.8%→24.3%（平成 18～20 年調査平均値→平成 21 年調査，以下同様）と減少し，一方，30 分～１時間が 26.8%→32.6%，１時間～２時間が 12.0%→15.0%と増加した。また，講義毎に行っている授業評価アンケートを経済学関係科目で集計した結果では，「時間外に自主的にこの授業に関して自学自習をした。」という設問に対し，「非常にあてはまる」及び「ややあてはまる」と回答した合計割合は，平成 18 年１学期の 35.3%から毎学期向上し，平成 21 年２学期では 49.8%に達した。

整理番号	36 - 4 - 20

現況分析における顕著な変化についての説明書（教育／研究）

法人名　新潟大学　学部･研究科等名　経済学部

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目Ⅳ　学業の成果

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名 学生が身に付けた学力や資質・能力

本学部の昼間コースでは２年次から３年次に進級する際，夜間主コースにおいては３年次から４年次に進級する際，進級要件を設けている。昼間コースにおける進級率（在籍者数から休学者を除いた判定対象者数で進級者数を除した値）は平成 18 年度以降，89.2%，89.0%，88.6%と高いレベルを維持している。アドバイザー制を導入し，学生一人一人に対して毎学期始めに履修科目等のアドバイスを行っている結果である。一方，夜間主コースにおける進級率は平成 18 年度以降，58.6%，72.6%，71.4%と大きく向上した。これは夜間主コースを端とするアドバイザー教員を平成 19 年度より増員し，従来以上に丁寧にアドバイスを行った成果と言える。

また，平成 20 年度には２名の学生が在学中に公認会計士試験に合格した。これは主体的な学習を促す取組などにより，学生が身に付けた学力等が向上したと考えられる。

○顕著な変化のあった観点名 学業の成果に関する学生の評価

毎年４月に行っている学生アンケートによれば，昨年度に勉強ができたこととして「専門的な知識ないし基礎知識が身に付いた」及び「物事を多面的に考察するなどの教養が身に付いた」とする回答が平成 21 年調査では大きく上昇し，専門科目の理解度も，「ほぼ理解できた」及び「理解できる講義のほうが多かった」の合計が 71～72%と向上した（資料）。

資料　学生アンケート集計結果

昨年度，経済学部で主にどのような勉強ができたと思いますか，２つまであげて下さい（抜粋）

	19 年	20 年	21 年
1)経済・経営という専門領域から社会問題を理解する能力が培われた	34.3%	32.1%	34.4%
2)専門的な知識ないし基礎知識が身に付いた	49.8%	48.8%	56.3%
5)物事を多面的に考察するなどの教養が身に付いた	15.0%	12.5%	20.1%
9)あまり成果が上がったとは思えない	14.8%	13.7%	8.7%

昨年受講した経済学部の専門科目はどの程度理解できましたか，１つだけ選んで下さい。

	19 年	20 年	21 年
1) ほぼすべての講義が内容は理解できた。	11.5%	11.6%	11.7%
2)理解できる講義のほうが理解できない講義よりも多かった。	57.7%	60.1%	60.8%
3)理解できない講義のほうが理解できる講義よりも多かった。	27.2%	24.8%	25.5%
4)ほとんどの講義の内容が理解できず，講義について行くことができなかった。	2.8%	2.3%	1.5%

整理番号	36 － 4 - 21

現況分析における顕著な変化についての説明書（教育／研究）

法人名　新潟大学　学部･研究科等名　経済学部

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

質の向上度の事例１「基礎的プレゼンテーション能力の培養－スタディスキルズの継続的改善－」

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

１年次生を対象としたスタディスキルズでは，平成 16 年度からその内容を改善し，その後もブラッシュアップしてきた。特に，平成 20 年度頃からは，指導方法も確立し，担当教員も経験を積んだことから，平成 19 年度までに認められた「プレゼンテーション能力の向上」だけに留まらず，「大学における学習法を身に付ける」というスタディスキルズ本来の目的においても，その成果が具体的に現れてきた。

この点は，毎年４月に実施している学生アンケートを，昼間コース２年次生を対象に集計した結果にも表れている（資料）。「昨年度，経済学部で主にどのような勉強ができたと思いますか，２つまであげて下さい。」という設問に対し，「経済･経営という専門領域から社会問題を理解する能力が培われた。」という回答が 22.4%→27.2%（平成 18～20 年調査平均値→平成 21 年調査，以下同様），「専門的な知識ないし基礎知識が身に付いた。」が 50.9%→63.2%，「物事を多面的に考察する教養が身に付いた。」が 10.0%→14.9%と増加し，一方で「あまり成果が上がったとは思えない。」とする回答が 17.5%→12.3%と減少した。これは大学での学習法を身に付けてきた学生が増加していることを示すものである。よって，スタディスキルズの継続的改善による質の向上は顕著な変化があったと考えられる。

資料　学生アンケート集計結果（昼間コース２年次生について集計）

昨年度，経済学部で主にどのような勉強ができたと思いますか，２つまであげて下さい。

	平成 18 年	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年
1)経済・経営という専門領域から社会問題を理解する能力が培われた。	21.5%	21.6%	24.2%	27.2%
2)専門的な知識ないし基礎知識が身に付いた。	53.5%	48.0%	51.1%	63.2%
3)資格試験や検定試験を受ける準備になった。	9.9%	11.7%	10.1%	11.4%
4)将来の進路についての目的意識が明確になった。	7.0%	8.2%	7.3%	7.0%
5)物事を多面的に考察するなどの教養が身に付いた。	10.5%	13.5%	6.2%	14.9%
6)語学の能力に磨きがかかった。	16.9%	9.9%	12.4%	10.5%
7)自分の意見を積極的に表現する能力が身に付いた。	5.8%	2.9%	1.7%	3.5%
8)1)～7)以外の面で成果が上がった。	3.5%	4.1%	2.2%	3.5%
9)あまり成果が上がったとは思えない。	14.5%	19.9%	18.0%	12.3%